



CSR 2015

伊藤ハムグループ CSR報告書

INDEX

会社概要／編集方針 2
 トップコミットメント 3



お客様満足を目指して 5

さまざまな声に耳を傾け、伊藤ハムグループ全体で改善に取り組んでいます



食べる喜びを伝える 7

ウインナーの飾り切り教室など親子で楽しめる食育活動を行っています



日本ユニセフ栄養事業の支援 9

タンザニア支援プロジェクトへの累計寄付金合計が1億円を超えました



女性社員の活躍 11

女性がより活躍できる職場づくりを進めています



環境保全活動 13

伊藤ハムデイリー小樽工場CO₂排出量削減の取り組み



旨包ハンバーグ



グランドアルトパイエルン

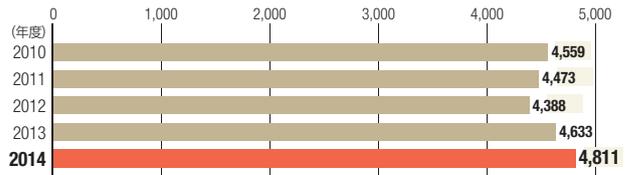


ポークビッツ

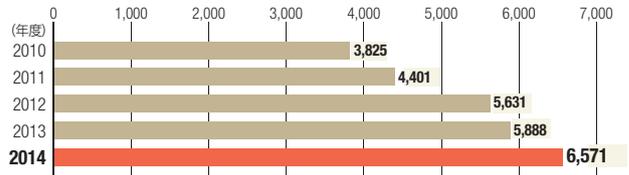
■ 会社概要 2015年3月現在

会社名	伊藤ハム株式会社
設立	1948年(昭和23年)
創業	1928年(昭和3年)
本社事務所	兵庫県西宮市高畑町4番27号
代表者	代表取締役社長 堀尾 守
資本金	284億2,700万円
売上高	4,811億3,000万円(連結)
連結対象会社	連結子会社 52社 持分法適用関連会社 13社
従業員数	1,740人(連結:5,562人)
主な事業	● 食肉加工品の製造および販売 ● 食肉の加工および販売 ● 調理加工食品、惣菜類の製造 および販売など

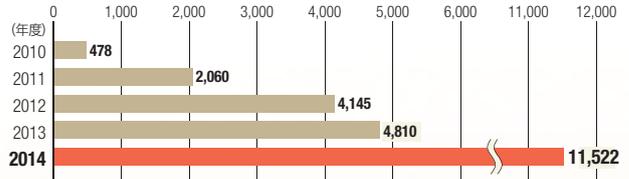
売上高の推移 (億円)



経常利益の推移 (百万円)



当期純利益の推移 (百万円)



■ 編集方針

本報告書は、ステークホルダーの皆様へ伊藤ハムグループのCSR活動(社会的活動および環境保全活動)をわかりやすくお伝えすることを目的に、2014年度(2014年4月1日から2015年3月31日)の活動の中で特に重要性の高い事項を中心に編集致しました。

この報告書に掲載できなかった、活動の詳細や、サイトごとの詳細データなどについては、HTML版として当社ホームページ上で公開しています。

また、本報告書はホームページのみで開示しており、冊子の発行はしておりません。

● 伊藤ハムホームページ <http://www.itoham.co.jp>

● 報告対象組織

基本的には伊藤ハムグループの取り組みを報告していますが、一部の報告では伊藤ハム株式会社、もしくは弊社およびグループの生産工場に限定している場合があります。

● 報告対象分野

伊藤ハムグループが取り組みを行う社会的活動および環境保全活動

● 対象期間

基本的には2014年度(2014年4月1日から2015年3月31日)の取り組みを報告していますが、一部では2014年度以前、以降についても報告しています。



お肉屋さんの惣菜
ハムカツ



朝のフレッシュ
ロースハム



伝承ギフト

真に社会から 信頼され続けるために

はじめに

伊藤ハムグループは、創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」との社是を掲げ、皆様の健康にとって大切な動物性タンパク質である食肉や食肉加工品をお届けし、食生活の向上に貢献してまいりました。価値ある商品・サービスの提供を通して、「食べること」の喜びや楽しさを伝えていくことがグループの使命であると認識し、「食」を担う企業として皆様からいただいている信頼を盤石とするための活動を積極的に推進してまいります。

また、「アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる」ことを経営ビジョンと定め、伊藤ハムグループ中期経営計画(CNV2015)の達成に向け構造改革と成長戦略に全力で取り組んでおります。特に、「コンプライアンス体制のさらなる充実」と「人材の育成」については中期経営方針の重要事項の筆頭に掲げ、経営品質を高めるとともに、地球環境への配慮、社会貢献活動や食育活動などの分野においても、積極的に活動しております。

2013年10月には、創業の地である神戸市との間で包括連携協定を締結致しました。今後も引き続き、「自然環境保全」、「食育」、「防災」、「地域活性化」など幅広い分野で協力を進めてまいります。

コンプライアンスを推進する体制

伊藤ハムグループでは第三者を含む、取締役会の諮問機関である「CSR委員会」と、「コンプライアンス責任者会議」を頂点とする推進体制に加えて、「コンプライアンス委員制度」や「リーガルリスクマネジメントシステム」の運用などを通じ、社内の各階層に対して様々な施策・取り組みを実施、コンプライアンス意識の高揚と体制の強化を継続的に図っております。

「コンプライアンス委員制度」は、明日を担う若手社員の中からコンプライアンス委員を任命し、担当職域を定め職場に根付いたコンプライアンス活動を推進するものです。現在の委員数はグループ全体で約300名規模となり、職場のコンプライアンスチェックはもとより、コンプライアンス風土の醸成に向けた活動に取り組んでいます。

これらの取り組みを支える中核としてCSR本部があり、各部門・グループ各社と連携して体制の確保・制度の運営・施策の実行を進めております。従業員教育を通して伊藤ハムグループ全体のコンプライアンスマインドの浸透と徹底を図るため、毎年全従業員を対象とした教育プログラムを実施し、その効果をモニターすることもCSR本部の役割です。また、食品会社として最も重要なことは、おいしい製品を安心してお召し上がりいただくことで、品質管理徹底の重要性は言うまでもありません。

各生産現場・流通段階における管理、検査、点検の徹底にグループを挙げて取り組む中、CSR本部が主体となる監査、点検も継続的かつ網羅的に行っています。

社会と共生する 「社会貢献活動」「食育活動」

伊藤ハムグループは、事業活動を通じての社会との共生が大切と考え、社会貢献活動を推進しています。日本全国の事業所周辺の清掃活動には、毎年約2000人以上の従業員が参加するほか、「六甲山自然環境保全活動」を継続して支援する「こうべ森の学校」のほか「高尾の森づくりの会」の活動への参加を通じて間伐・植樹作業を実施するなど、自然環境保護活動も継続して実施しております。

また、開発途上国の子どもたちを支援するユニセフの趣旨に賛同し、2008年より「タンザニア支援プロジェクト」

ト」による栄養事業支援活動を行ってまいりました。この取り組みは、弊社製品の販売数量に応じた寄付を行うもので、皆様のあたたかいご支援により、7年間の寄付金合計は1億円を超えました。今後もユニセフの活動を支援することで、より一層社会貢献活動を推進してまいります。

一方で、「食育活動」は食品企業だからこそできる社会貢献活動の一つであり、伊藤ハムグループのCSR活動の重要な一環として考えております。「伝えていきたい食べるよろこび」をメインメッセージとしてさまざまな食育活動に取り組んでおります。“食とeco”わくわく探検隊ではエコロジーフッキングを取り上げ、親子で参加をいただきました。また、継続した取り組みであるウインナーの飾り切り教室を2014年度は全国52か所で開催し、お弁当をもっと楽しくするお手伝いをさせていただきました。伊藤ハムブランドに込めたわれわれの想いを知っていただき、「食」への理解を深めていただく一助になると確信し、今後も継続して活動を行ってまいります。

環境負荷を低減するために

継続的な環境保全と自然との調和・共生、地球環境に配慮した事業活動を行うことは、伊藤ハムグループが企業の社会的責任を果たす基本姿勢と位置づけております。省エネルギー・省資源の推進、廃棄物の削減とリサイクルの推進、温室効果ガスの排出量削減など、様々な環境負荷低減活動に積極的に取り組むとともに、全生産施設を対象として、中期環境目標を定め、達成に向け日々努力を重ねております。

2014年度も引き続き高効率タイプのボイラーや冷凍機への更新など施設に関わる取り組み、およびLED照明への切り替え、空調機を高効率タイプに更新するなど設備面での取り組みを行いました。今後も目標達成に向けて、様々な環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいります。

人材力を強化するために

従業員は会社の大切な財産です。人材の育成と働きやすい環境づくりは、企業の持続的発展を志向していく上での要として重要であります。教育制度の充実は言うまでもなく、労働安全衛生、健康管理、女性の活躍推進や、ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティの推進などにも重点を置いた独自の取り組みを進めております。

社会から信頼され続けるために

伊藤ハムグループが真に社会から信頼され続けるために、多方面にわたる様々な課題にチャレンジし、全力で邁進いたします。

これらの活動につきましては、今後ともこの「CSR報告書」にて幅広く情報開示を行ってまいります。伊藤ハムグループの活動内容とその結果に対するステークホルダーの皆様のご理解と、皆様からの忌憚のないご意見・ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

2015年9月

代表取締役社長

堀尾 守





お客様満足を目指して

さまざまな声に耳を傾け、伊藤ハムグループ全体で改善に取り組んでいます

お客様相談室へお寄せいただいたご質問・ご意見を大切な資産として受け止め、真摯に耳を傾けるとともに、伊藤ハムグループ全体で共有することによって、商品・サービスの改善や、お客様にとって分かりやすい情報提供に活かしています。

お客様相談室には、日々、お客様の多様な声が寄せられています

伊藤ハムグループに寄せられるお客様の声のうち、最も多いのは「商品に関するご質問」です。商品の特長、食べ方、調理法、商品の販売店に関することや商品の保存に関すること、商品の栄養成分やアレルギー物質に関することなど他にもさまざまなご質問をお寄せいただいています。

伊藤ハムグループの商品に関心をお持ちになり、お問い合わせをいただいたお客様に、単なる商品の食べ方だけではなく、食事シーンに合わせたメニューのご提案など幅広くお答えすることを目指しています。



お客様相談室は総勢5名のスタッフで対応しています。

例えば、グランドアルトバイエルンの場合・・・



VOICE

CSR本部
お客様相談室

木曾 義典



モットーは、お客様のお気持ちに沿ってお話を聞くことです

お客様から、「問い合わせをしておよかった」と感じていただけるよう、お客様のお気持ちに添って話を聞くことをモットーにしています。また、商品の食べ方に関するご質問については当社商品をご利用いただくことで素敵な食事をお楽しみいただけるよう、お客様と当社商品の出会いをコーディネートできるよう心掛けています。

改善ポイント

「ご使用いただける調理器具」をわかりやすく○×で表示しました。

電子レンジで加熱したら、カチカチになってしまった。調理方法に書いてある絵は電子レンジではないのですか？



品質保証連絡会で お客様のご意見を共有しています

伊藤ハムグループは、商品の安全や品質の向上に関わる情報を関連部門間で共有し、速やかに改善を進めるために、各部門の品質管理責任者が一同に集う「品質保証連絡会」を定期的に開催しています。

また、会議ではお客様から弊社へいただいた貴重なご意見についても情報を共有するとともに、改善策を話し合い、お客様のニーズを反映した商品開発やサービスの向上の実現に向け、真摯に取り組んでいます。



2015年3月、品質保証連絡会で 伊藤ハムグループ品質方針を定めました

品質理念

私たち伊藤ハムグループは、すべての事業活動において「お客様第一」を念頭に品質管理に取り組み、お客様においしく、安全で安心な商品やサービスの提供をお約束します。このお約束を守るため、伊藤ハムグループでは以下の「品質方針」を定めて事業活動に取り組めます。

品質方針

- ① お客様の声に真摯に耳を傾け、お客様のニーズに沿った商品の開発やサービスの向上に努めます。
- ② お客様の立場になり、正確で分かりやすい情報提供を心がけます。
- ③ 調達、生産、物流、営業、販売に至るまで、より高い品質を追求し安全を確保する体制を構築します。
- ④ 伊藤ハムグループの一人ひとりが、お客様に安全で満足いただける品質を目指します。

例えば、ラ・ピッツァシリーズの場合・・・



脱酸素剤とは知らず、
ピザに振りかけて
食べた。



改善ポイント

「おいしい召し上がり方」
の掲載部分に、脱酸素剤
を取り除くイラストと注意
書きを入れました。

安全・安心への取り組み

<http://www.itoham.co.jp/corporate/safety/>

安全でおいしい商品をつくるため各工程での品質管理や法令や運用規則が守られるよう客観的にチェックし、改善を支援する品質保証の取り組みについてホームページで詳しく説明しています。



わかりやすい イラスト表示と説明を 入れました





食べる喜びを伝える

ウイナーの飾り切り教室など 親子で楽しめる食育活動を行っています

「食べる」ということがおろそかになっている現代において、健全な生活の基礎となる「食」の大切さや楽しさ、家族そろっての食事が語らいや団らんを育むことを伝えていきたい——。このような思いから、伊藤ハムは「ウイナーの飾り切り教室」をはじめ、親子で楽しめる食育イベントを全国で展開し、地域の皆様との絆を深めるとともに、食べる喜びを伝えるメッセージを発信し続けています。

「食」の大切さを伝える ウイナーの飾り切り教室を全国で開催

伊藤ハムは、食を扱う企業として「食べる」ことの喜びや楽しさ、家族そろっての食事の大切さをしっかりと伝えていくことが使命であると考えています。この思いを基本理念として、お子様から大人の方まで健全で楽しい食生活の大切さを認識していただくとともに、食肉加工品を活用した正しい食のライフスタイルをご提案することを狙いとして、「ウイナーの飾り切り教室」を全国各地で継続的に実施しています。2014年度は延べ52回開催し、約1,050名の方に飾り切りを楽しんでいただきました。

飾り切り教室の
開催回数
(2014年度)

52回

飾り切り教室の
参加者数
(2014年度)

約1,050名

教室で覚えた
飾り切りを自宅でも作って、
子どもを
喜ばせたいです。



先生やスタッフが丁寧にアドバイス

孫や子どもをつなぐ
良い企画ですね。

最初は
包丁を触るのが
怖かったけど、
結構うまくできた!



子どもも、先生も、手元を
見つめる眼差しが真剣

Facebookでもハム係長が
レシピや新商品などのお役立ち
情報をお伝えしています

<https://www.facebook.com/itoham>



かわいい動物や
お花が作れて、
すごく楽しかった!



飾り切りしたウィンナーはピザにのせておいしく試食

詳細な作り方は
ホームページ
「わくわく飾り切りランド」で
紹介しています。



ウィンナーの
豆知識や
お肉の話なども聞いて、
勉強になりました。

難しいと
思っていたけど、
意外と簡単に
できました。



親子での会話が弾む飾り切り

飾り切り教室
に関する
お問い合わせは
こちらへ

伊藤ハム株式会社
広報・IR部
代表 TEL.0798-66-1231





日本ユニセフ栄養事業の支援

タンザニア支援プロジェクトへの累計寄付金合計が1億円を超えました

伊藤ハムは、社是である「事業を通じて社会に奉仕する」を実践するために、自然環境保護活動やボランティア活動をはじめとする社会貢献活動に注力してきました。このような活動の一環として、食に携わる企業としての社会的責任をより積極的に果たしていくため、2008年から「タンザニア支援プロジェクト」として、日本ユニセフ協会がタンザニア連合共和国ザンジバルで行う栄養事業を支援しています。

タンザニアの子どもたちを栄養不良から守るユニセフの活動を継続的に支援

支援先をタンザニア連合共和国ザンジバルとした主な理由は、急性栄養不良の子どもたちが多く、貧困も深刻な課題となっていること、また、政情が安定しており、継続的な活動が見込めることの2点です。支援の方法は、対象期間に弊社対象商品の販売数量に応じその一部(2014年度は1パックにつき1.5円)を日本ユニセフ協会へ寄付するというもの。2008年からの7年間で累計寄付金合計は1億915万2,179円となりました。併せて、プロジェクトに携わる弊社のメンバーが2009年、2010年の2回現地を訪れ、支援の状況や課題を確認する作業も行っています。弊社は今後も、日本ユニセフ協会への支援をはじめ、社会貢献活動を推進していきます。

タンザニア連合共和国

約 **200,**
急性栄養不良から守る、日本ユニ

伊藤ハムが行うタンザニア支援の概要

1 対象商品 をご購入

2014年度は「ポークビッツ」、
「チーズイン」の
2つが対象商品。



2 日本ユニセフ協会への寄付

対象商品1パックにつき、
1.5円を日本ユニセフ協会に寄付します。

3 支援プロジェクトへの貢献

タンザニア連合共和国ザンジバルの5歳未満児約20万人を急性栄養不良から守るための活動を支援します。



UNICEF/UNI1161891/Holt





We Support



伊藤ハムはユニセフを支援します。

UNICEF/PEPG2014-1189/Hallahan

ザンジバルの5歳未満児

000人を

セフ協会の活動を支援しています。



←ザンジバル



タンザニア
連合共和国



日本ユニセフ協会が行うタンザニア支援活動



1

自治体職員や保健施設のスタッフ、地域の保健ボランティアなど、スタッフを育成する。



2

スタッフが、子どもたちの発育観察を行い、栄養不良の子どもを早期に発見する。



3

栄養不良の子どもには栄養指導を行い、家庭ですぐに食べられる栄養補助食品を提供する。合併症などがあり、保健施設での治療が必要な子どもは施設を紹介する。



4

保健施設で治療用の粉ミルクや栄養補助食品を提供する。

タンザニア支援プロジェクト 伊藤ハムの活動のまとめ

2008年 創業80周年という節目を迎えたことを記念し、開発途上国で栄養不良にある子どもたちへの支援を開始。

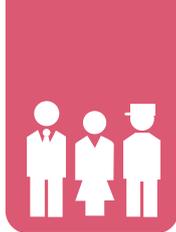
2009年 タンザニアの保健省大臣との面談や地元英字紙新聞社、タンザニア購読者が多いスワヒリ語紙新聞社からの取材など現地からも大きく注目されました。

2010年 寄付金額が大幅に増加したことにより、支援対象者や対象保健施設を広げることが可能になり、対象地域をザンジバル島とベンバ島の150箇所まで拡大、支援を行う子どもたちも2万人から20万人へとプログラムを変更しました。

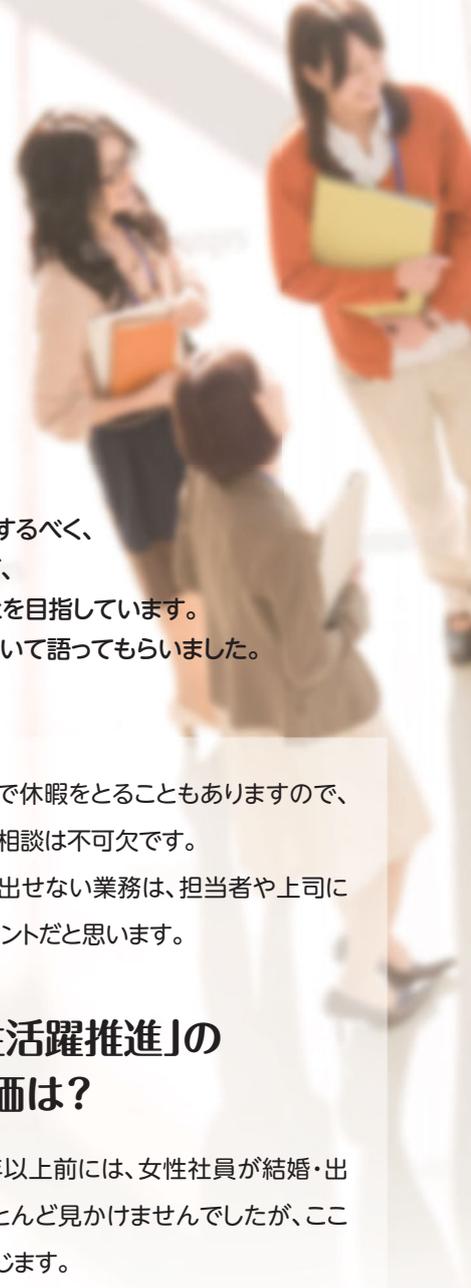
2014年 7年間の累計寄付金合計が1億円を超えました。

日本ユニセフ協会から感謝状が贈呈されました。





女性社員の活躍



女性がより活躍できる 職場づくりを進めています

伊藤ハムは、育児や介護など、社員それぞれの条件に関わらず、一人ひとりが生きがいを感じながら働くことができ、能力を十二分に発揮できる職場環境を実現するべく、多様な両立支援制度を設け、運用しています。さらに、女性がより重要な役割・責任を担うことが、企業競争力・企業価値の向上につながると考え、2018年度までに女性管理職を3.0%とすることを目指しています。日々、仕事と育児の両立に奮闘する女性社員たちに、ワーク・ライフ・バランスの状況や課題について語ってもらいました。

仕事時間が限られる中、工夫していることは？

今村 育児などで仕事時間に制約があっても、成果を出すために心がけていることは、常に、一つ一つの業務に対してスピード感をもって取り組むことです。毎朝の通勤時に、まず1日の流れや進めたいことを考え、優先順位をつけて仕事に取りかかっています。

石川 仕事の優先順位と期日

をはっきりさせておくことは大事ですね。私は始業時に、その日に必ずやらなければいけないことをリストアップしておくようにしています。

米田 私も朝に仕事の

リストを作り、一日の仕事の流れをイメージするようにしています。

想定外の業務が発生して、計画通りにいかないこともあります。それでもリストを作ったほうが、仕事ははかどるように感じます。

中川 1日の目標・ゴールを定めて、質の高い仕事をするのが大事ですね。

石川 所属チームのメンバーとコミュニケーションをとって、協力を得ることも必要です。私は、上司とのやりとりを密にし、アドバイスをもらいながら、仕事を進めています。また、仕事の情報をできるだけチームのメンバーに共有しておき、突然の休みの際にも進めておくべきところは進めてもらえるよう環境を整えています。



事業戦略統括部
家庭用企画部
第1プロダクト室

**今村
佳代子**

生活者の立場で
商品を企画したい

中川 子どもの急病などで休暇をとることもありますので、上司や同僚への報告・連絡・相談は不可欠です。

今村 自分だけで結論が出せない業務は、担当者や上司に相談しながら進めるのもポイントだと思います。

伊藤ハムの「女性活躍推進」の取り組みへの評価は？

石川 私の入社した10年以上前には、女性社員が結婚・出産して仕事を続ける例はほとんど見かけませんでしたが、ここ数年でとても多くなったと感じます。

今村 そうですね。ワーク・ライフ・バランスや女性活躍推進の取り組みが浸透してきたからでしょうか。

中川 年々、各種の両立支援制度が整備され、利用しやすいものになってきました。その成果が、女性の育休後の復職率の向上につながっているのでは？

米田 確かに、ワーク・ライフ・バランスの制度導入という点で、伊藤ハムはとても積極的に取り組んでいると思います。ただ、それらの制度の「利用」という面では、十分とは言えないのではないのでしょうか。

石川 そうですね。私の部署はとても働きやすいと感じていますが、一方で、部門によっては条件が合わずに辞めていく人、部署を異動する人もいます。どの部門でも、女性が継続して働いていけるようになればいいと思います。

中川 伊藤ハム全体では、両立支援



食肉事業本部
事業戦略部
販売支援室

**石川
麻由美**

「任せて良かった」と
思われるような
仕事をしたい

制度を利用している女性社員が増えています。男性中心の職場もまだ多いと感じます。

米田 「育児や介護のためにどうしても必要だから」と肩身の狭い思いをしながら制度を利用するのではなく、仕事とプライベートのメリハリをつけるような、前向きなワーク・ライフ・バランスが進む会社風土になればいいと思います。

石川 それに加えて、ワーク・ライフ・バランスの議論では、女性の働きやすさに焦点があたることが多いのですが、子育て中の男性のワーク・ライフ・バランスについても、もっと推進が必要だと感じます。

いきいきと活躍するため、女性社員自身ができることは？

今村 「女性だから」「子どもがいるから」と消極的になることなく、女性社員が意見を会社に伝えることが大事ですね。

また、伊藤ハムの商品を購入するお客様には、女性の方が多いと思います。女性社員が、商品を購入する

女性のお客様の視点に立って仕事をすることで、お客様により喜んでいただくことができ、なおかつ女性社員も大きなやりがいを持って業務にあたることのできるのではないのでしょうか。

中川 確かに、今後もさまざまな分野で女性の視点や感性、発想が欠かせないと思います。また、女性がいきいきと活躍するためには、働きやすい職場づくりが不可欠です。今後、両立支援制度を利用したい女性社員がいれば、相談相手になるなどサポートしていく存在になりたいと思います。

石川 制度を利用する分、ともに仕事をしている上司・同僚には負担がかかることも理解し、自分自身がより質の高い仕事をしていきたいです。女性社員が、自分が持つスキルを後輩達に伝え、チームとしてより良い仕事をしていくことが、女性がいきいきと活躍することにつながるのではないのでしょうか。



生産本部
六甲工場
品質管理課

**中川
早織**

制度利用者の
相談相手になり、
支えたい



管理本部
広報・IR部
広報室

**米田
愛子**

「忙しそうだけど
楽しそう」と
言われたい

米田 これまで当社では、産休・育休の取得後に管理職になった女性社員はおらず、私がそのパイオニア的な存在になればいいなと思っていました。管理職

となった今は、いつも努力を怠らないこと、笑顔を忘れないことを常に心がけて、仕事に携わっています。これから続く「ママさん社員」にとって、管理職がハードルの高いものでなく、ごく普通の選択肢の一つになればいいですね。また、当社で女性社員がさらにいきいきと活躍するために、自分たち自身ができることについて、もっと多くの女性社員と意見交換がしたいです。

育児と仕事の両立支援制度

制度	内容
産前産後休暇	出産予定日8週間～産後8週間
育児休業	子どもが満1歳になるまで ただし、認可保育所に入ることができない等の場合は、満2歳まで取得可能
育児短時間勤務制度	小学校3年生修了までの間で、 育児休業期間と通算して72か月間まで
家族ケア休暇	中学校就学前の子の看護等のために、 年10日を付与
ジョブリターン制度	結婚、出産、育児、配偶者転勤の理由により退職した女性社員の再入社制度

 VOICE
管理本部人事総務部人事政策室
ワーク・ライフ・バランス推進担当
鈴木 真理子



伊藤ハムグループのさらなる飛躍には、女性の活躍が不可欠です

伊藤ハムグループのさらなる飛躍を支えるのは人材力です。貴重な人材である女性の活躍が不可欠だと考えます。これからも、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍推進の取り組みを継続し、育児や介護を始めとする家庭責任などそれぞれが持つ条件に関わらず、女性社員がいきいきと働き、能力を発揮できる会社を目指します。



環境保全活動

伊藤ハムデイリー小樽工場 CO₂排出量削減の取り組み

小樽工場では、CO₂排出量を削減するために、2011年よりボイラーの燃料を重油から天然ガスへ転換する計画を定め進めてきましたが、ボイラーの更新時期に合わせて、2014年10月15日、天然ガス焼きボイラーへの切り替えを完了しました。
今後も地域のエネルギー特性を踏まえながら、地球環境への負荷低減に努めます。



小樽工場

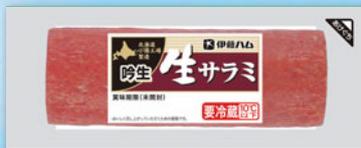
〒061-327

北海道小樽市銭函5丁目61-3

伊藤ハムグループ「北海道唯一」の ハム・ソーセージ生産工場

石狩湾新港地域に立地する小樽工場は、伊藤ハムグループにおける、北海道唯一のハム・ソーセージの生産拠点として位置づけられています。2015年4月現在、141名の従業員が在籍し、一般的なハム・ソーセージのほか、生ハム、ドライソーセージ、サラミなどを製造するとともに、北海道産の原料を使ったオリジナル商品も生産しています。

生産品目



ブランドアルトバイエルン、PRIMEあらびきグルメポークウィンナー、小樽ロマン味紀行ローズ生ハム、吟生サラミなど

社会貢献活動の一環として クリーンアップ活動にも積極的に参加

石狩市等が主催する「石狩湾新港地域春季クリーン作戦」や「クリーンアップ石狩新港浜」に、毎年、多くの小樽工場および伊藤ハムデイリー北海道地区従業員（その家族含む）が参加しています。また、小樽工場では工場周辺のごみ拾いも実施しています。

ごみのない美しい海辺の保護、清潔で快適な環境維持、地域社会との共生を目指して、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。



小樽工場
工場長

大味 良樹



「もったいない活動」に 従業員全員が取り組んでいます

小樽工場では、日々のISO14001活動として、すべての従業員が「もったいない活動」※に取り組み、省エネルギーや廃棄物の削減を積極的に進めています。また、ハード面では「天然ガス焼き高効率ボイラー」を導入し、CO₂排出量を削減するとともに、さらなる環境負荷低減を図るために、省エネ型の冷凍機やスクリーューコンプレッサーへの切り替えを検討しているところです。

※「もったいない活動」：電気・用水の使用量や動植物性残さ・廃棄物の発生量を日々掲示板に貼り出し、その進捗状況を「見える化」、従業員の「もったいない意識」を啓発する活動



石狩スマートエネルギーコミュニティ構想への参加

石狩スマートエネルギーコミュニティ構想は、石狩湾新港地域の省エネと産業の活性化などを目的として、地域の特性である多彩なエネルギーを活用しながら、分散型エネルギーインフラの整備を進めるものです。小樽工場は、この構想の事業目的である「域内エネルギーの需給バランスの最適化に伴う環境負荷の小さい災害に強い大規模工業団地の形成」に賛同し、最適なインフラ整備の実現を目指して、この構想に参加しています。

伊藤ハムデイリー小樽工場には、地域の中核企業としての活躍を期待しています



石狩スマートエネルギーコミュニティ構想の核となるエネルギーインフラは、石狩湾新港地域の天然ガスパイプラインと企業集積を活用したガスコージェネレーションです。今後は、2014年度までのエネルギー需要検証データを活用し、供給事業者の構築に向け、営業活動を進めたいと考えています。伊藤ハムデイリー小樽工場には、地域の中核企業として、幅広い事業活動の展開と、地域活性化への貢献を期待しています。

燃料転換、ボイラーを更新し CO₂排出量削減

2014年10月15日、ボイラーの燃料を重油から天然ガスに転換するとともに、重油焼きボイラーから天然ガス焼きボイラーに切り替え、CO₂排出量が2014年10月から2015年3月までの6ヶ月間で、前年比約24.7%減の183t-CO₂を削減することができました(月間約30t-CO₂減)。

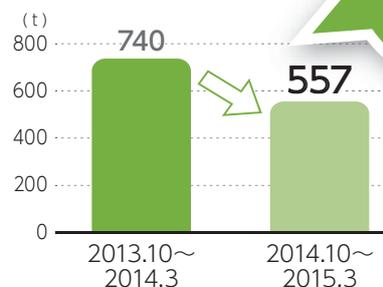
天然ガスCO₂排出係数：0.0136(重油の約0.72倍)
重油のCO₂排出係数：0.0189

コージェネレーションも 新たに設置

主として夏場のデマンド超過対策及び停電時の事務所の電灯コンセントの受電バックアップとして、コージェネレーションを設置しました。熱回収し、温水供給設備としての役割も果たしており、省エネルギー効果も期待できます。



ボイラーに係る CO₂排出量前年比較



CO₂排出量
24.7%
削減



CSRサイトのご案内

「環境保全活動をはじめ、CSR活動について社内外へ情報発信することは企業の果たすべき責任である」という認識のもと、積極的に情報を開示しています。

2000年から毎年、報告書を発行して CSR活動に関する情報を開示しています

環境保全活動をはじめ、伊藤ハムグループのCSR活動をご理解いただくために、2000年から毎年、CSR報告書を発行※しています。環境負荷の低減を考慮して2012年に冊子を廃止し、ホームページで情報を開示しています。

また、「伊藤ハムグループ2015年CSR報告書」のホームページに専用フォームを設け、CSR報告書に関するご意見、ご感想などを投稿いただけるようにしています。

※2000年はエコレポート、2001年～2004年は環境報告書、2005年～2007年は社会・環境報告書、2008年よりCSR報告書として発行



「伊藤ハムグループ2015年CSR報告書」のホームページ



社会活動、環境保全活動などについてのお問い合わせ先

伊藤ハム株式会社
CSR本部コンプライアンス推進室

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

T E L : (0798)65-5286

F A X : (0798)66-3391

U R L : <http://www.itoham.co.jp>

E-mail : eco@itoham.co.jp

発行 2015年9月